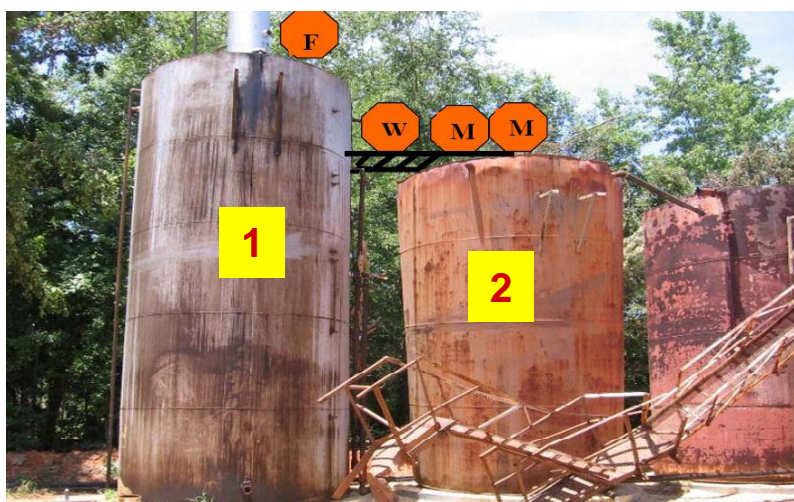


火気工事許可

2007年9月



何が起きたか？

左側の写真現場では、職長(F)と溶接工(W)各1名と保全作業員(M)2名が第1タンク上で溶接を行っていたが、正規の火気工事手順を踏んではいなかった。引火性ガス検知器を使った大気中の引火性蒸気のチェックをせず、その代わりに第1タンクでは、タンクに点火した溶接トーチを挿入して引火性蒸気をチェックした。これ自体危険な方法である。タンク同士は相互に連結されていたが適切に分離されていなかったため、タンクの中に存在した引火性蒸気が溶接作業場所に排出され着火した。職長と保全作業員2名は死亡し溶接工は重傷を負った。また、間に合わせの作業床 第1タンク(1)と第2タンク(2)の間に渡されたはしごの上で作業していたことに留意すること。

右側の現場では、ガソリン運搬車の近くで溶接を行っていたが、これも正規の火気工事手順を踏んでいなかった。引火性蒸気は着火し火災と爆発を起した。運搬車の片側鏡板は、道路の反対側の建物に当たっており、(この事故で)1名が死亡し他の1名が重傷を負った。

あなたにできること

- ▶ 危険な火気工事作業を知っておくこと 溶接・切断・研磨・ガスまたはジーゼルエンジン運転、その他引火性蒸気を着火させるスパークを生ずる作業。
- ▶ 自分が扱う設備の火気工事許可手順を理解、遵守すること。
- ▶ 火気工事許可証が適切に教育訓練された有資格者により発行されたものであることを確認すること。
- ▶ 火気工事の作業(または他のあらゆる作業!)に関し疑問があるときは、直ちにその作業を中止し、懸念されることを管理者に申し出ること。
- ▶ 安全に引火性雰囲気を確認するようデザインされた引火性ガス検知器を使用すること。

安全な火気工事手順を熟知し遵守すること！